

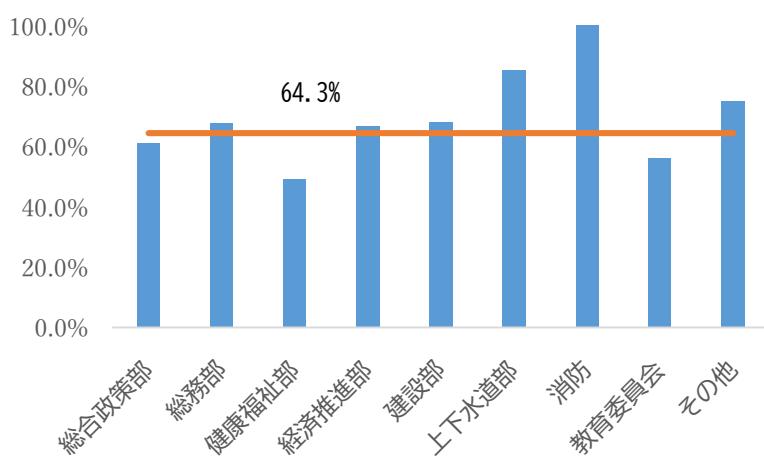
協働に関する職員アンケート調査結果

職員の協働に関する意識調査を行うため、小・中学校を除く職員（会計年度任用職員を含む）774名を対象に、アンケート調査を実施しました。回答件数は504件、回答率は65.1%でした。ご協力ありがとうございました。

1. 回答者所属

所属を特定できない回答が6件あったため、有効回答498件、回答率64.3%となりました。

総務部、経済推進部、建設部、上下水道部、消防、その他で全体の回答率を上回りました。

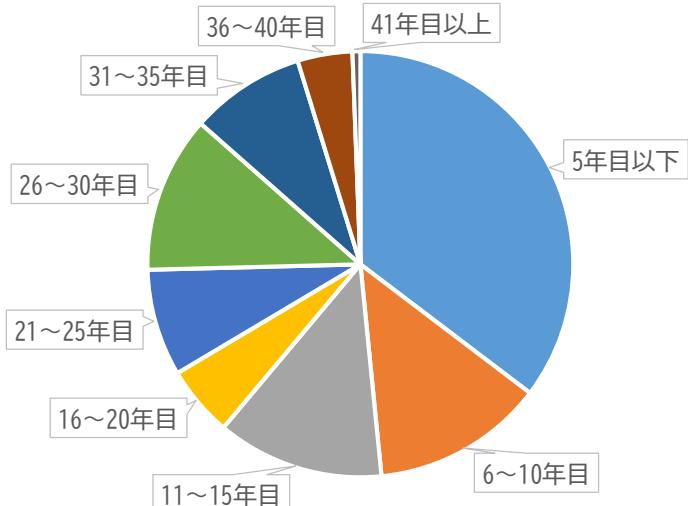


部名	人数	回答数	回答率
総合政策部	54	33	61.1%
総務部	111	75	67.6%
健康福祉部	226	111	49.1%
経済推進部	51	34	66.7%
建設部	69	47	68.1%
上下水道部	34	29	85.3%
消防	80	80	100%
教育委員会	121	68	56.2%
その他	28	21	75.0%

※ その他：議会事務局、危機管理室、出納室、選挙管理委員会、監査委員事務局

2. 勤続年数

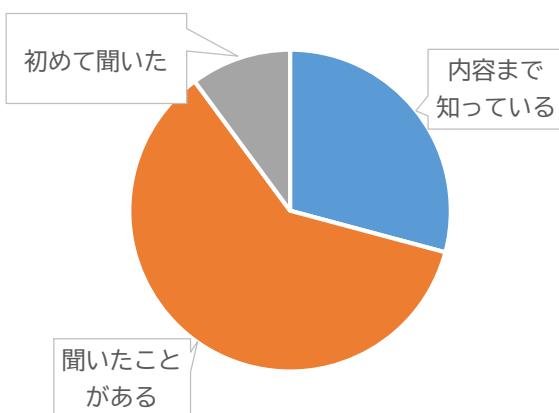
勤続年数	回答数	割合
5年目以下	178	35.3%
6～10年目	66	13.1%
11～15年目	64	12.7%
16～20年目	27	5.4%
21～25年目	41	8.1%
26～30年目	60	11.9%
31～35年目	44	8.7%
36～40年目	21	4.2%
41年目以上	3	0.6%



3. 「橋本市の自治と協働をはぐくむ条例」

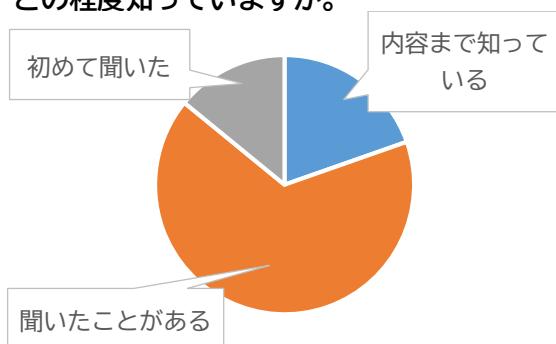
について、どの程度知っていますか。

選択肢	回答数	割合
内容まで知っている	147	29.2%
聞いたことがある	306	60.7%
初めて聞いた	51	10.1%



4. 平成 20 年策定の「橋本市協働の基本指針」について、どの程度知っていますか。

選択肢	回答数	割合
内容まで知っている	99	19.6%
聞いたことがある	334	66.3%
初めて聞いた	71	14.1%



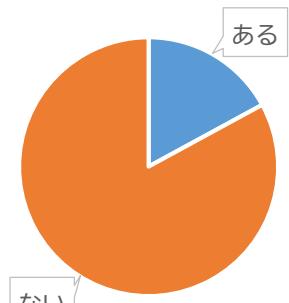
5. 今年度の担当業務において、地縁組織（区・自治会など）や市民活動団体（ボランティア団体・特定非営利活動法人など）と協働の実績はありますか。

選択肢	回答数	割合
ある	107	21.2%
ない	397	78.8%



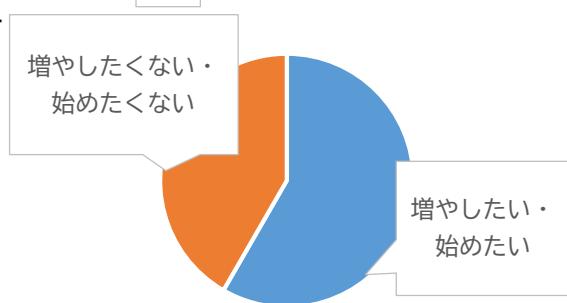
6. 今年度、業務以外で協働の取組みを行ったことがありますか。

選択肢	回答数	割合
ある	86	17.1%
ない	418	82.9%



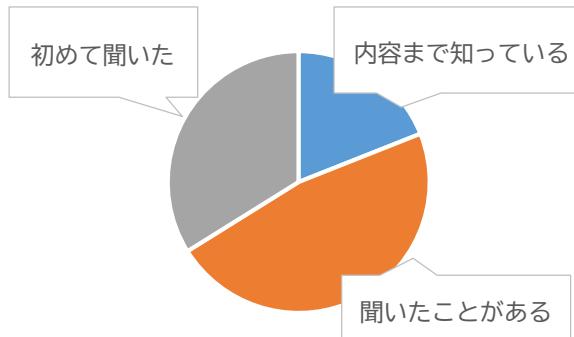
7. あなたは今後、協働を増やしたい・始めたいと思います

選択肢	回答数	割合
増やしたい・始めたい	294	58.3%
増やしたくない・始めたくない	210	41.7%



8. 市内の協働を広げることを目的に令和 6 年度設立された「はしもとプラチカ」をどの程度知っていますか。

選択肢	回答数	割合
内容まで知っている	87	19.0%
聞いたことがある	216	47.2%
初めて聞いた	155	33.8%



※ 以降は自由記述に関する回答です。回答は抜粋で、原文のままとなっています。

9. 今年度の担当業務において、地縁組織（区・自治会など）や市民活動団体（ボランティア団体・特定非営利活動法人など）と協働の実績はありますか。

事業名、概要、主な成果、課題を記載して下さい。（担当業務の協働の実績のうち、主なものひとつ）

【事業名】①救マーク制度 ②消防団応援の店 ③消防団協力事業所表示制度

【概要】①応急手当の普及啓発活動の推進を図り、救急事案が発生した場合に、迅速な対応ができる事業所を認定し、救急患者の救命率の向上を図り、市民が安心して利用できる施設及び街づくりに貢献できる制度。

②市内に所在する事業所又は店舗等に消防団応援の店として登録してもらうことにより、消防団員の福利を向上させ、入団を促進し、域防災力を向上させること等を目的とするとともに登録事業所又は、店舗への集客に貢献できる制度。

③橋本市消防団に積極的に協力している事業所等に対して、消防団協力事業所表示証を交付するために必要な事項について定め、もって地域の消防防災力の充実強化等の一層の推進を図る。

【主な成果】①普通救命講習受講者の確保及び技術の更新

②消防団員の福利の向上

③事業所等に対して、消防団協力事業所表示証を交付するために必要な事項について定め、もって地域の消防防災力の充実強化等の一層の推進を図れた。

【課題】

【事業名】高野口信太地区活性化事業

【概要】過疎化が急激に進んでいる信太地域の活性化について、地元区長を主体とする信太地区活性化協議会を開催し、総務省の予算を活用しながら移住者獲得施策などを実施

【主な成果】信太米のブランド化、空き家活用、里山整備など

【課題】地元民の興味を引きにくい。同じメンバーでの活動が目立つ

【事業名】橋本市青少年補導委員会

【概要】青少年の健全育成

【主な成果】市内で開催されるまつり等での補導活動を行った。

【課題】青少年が問題行動を起こす原因が単なる不良行為だけでなく、養育環境や発達特性など、個別化・複雑化・深刻化してきている。

また、問題行動の様態も従前の粗暴犯や窃盗、喫煙、夜間徘徊だけでなく、ネット上の暴言やいじめなどがあり、補導委員による補導活動ができない事案が増えてきている。

【事業名】TNR活動

【概要】地域の野良猫対策。避妊・去勢手術による繁殖の防止。

【主な成果】4月～11月までで72頭の野良猫の避妊・去勢手術が完了。

【課題】捕獲にあたる人員や動物病院まで送迎できる人員が少ない

<p>【事業名】学校運営協議会、共育コミュニティ</p> <p>【概要】学校と地域が連携・協働し、地域住民等が学校運営に参画することで、地域と一体となった特色ある学校づくりを進めることを目的とした活動学校・家庭・地域が一体となって、子供の豊かな育ちや学びを支えるなかで、大人も子供も共に育ち育てあい、人と人とのつながりをより深め、暮らしやすく活力のある地域づくりを目指した活動</p> <p>【主な成果】学校運営協議会と共育コミュニティの活動を一体的に進めていくために中学校区ごとに「グランドデザイン」を作成することができた。</p> <p>【課題】先を見通したビジョンと、それに向けた戦略的なリーダーシップが求められる活動である。 教職員の資質向上、この活動に関わってくださる方々の裾野を広げることを継続的に行っていかなければならない。</p>
<p>【事業名】橋本市ふる里よいとこ探しナチュラルブレイク</p> <p>【概要】杉村公園の自然の中に住民が集い、自然の大切さを体感する</p> <p>【主な成果】小学生の学習発表や音楽会、模擬店にたくさんの方々が来場し楽しいひと時を過ごしてもらえた。</p> <p>【課題】運営委員さんの高齢化、小学生の学習発表が難しくなっている（先生による引率が働き方改革によって難しくなっている、デジタル化が進んでいるので模造紙に書いての発表が難しくなっている）</p>
<p>【事業名】普通救命講習</p> <p>【概要】応急手当普及員講習を受講した一般市民（防災士の会等）が普通救命講習を実施（一般市民・市職員対象）</p> <p>【主な成果】一般市民に対しては普通救命講習3回（受講者44名）指導を行った。市職員対象の普通救命講習に1回指導を行った。</p> <p>【課題】強制はできないため、自発的に依頼があるか募集等を行う必要がある。</p>
<p>【事業名】ファミリーサポートセンター</p> <p>【概要】地域の中で、子育てを支援する相互援助事業</p> <p>【主な成果】提供会員として登録をする市民と協働して、子育てに困っている依頼会員を支援、応援することにより就労等の後押しとなる</p> <p>【課題】提供会員の増員とスキルアップ</p>
<p>【事業名】紀伊見峠「ふるさと展望」</p> <p>【概要】自治会や地域団体、地域から推薦された公民館運営委員で構成された実行委員会形式の市委託事業。北部の地域活性化、交流を目的とした事業。ウォーキングやワークショップなどを開催。</p> <p>【主な成果】在来と新興住宅の地域の方々との交流が図れる。地域のことを良く知れる。公民館の存在を知つてもらえる機会となり、防災面からも役立つ。</p> <p>【課題】実行委員や地域でお世話をいただいている方の高齢化により、身体への負担軽減が求められているので、事業の見直しを図っている。</p>

10. 協働を推進する上での、全庁的な課題と、その課題が発生していると思われる理由を挙げてください。

- 協働に対する知識や理解が不足している。また、インターネットの更なる普及により、地域の方々との顔の見える関係づくりが減ってきている。
- 職員の協働に関する理解、認識に差があるように思います。地域の希薄化が進む中、職員でも区に入っていない者もいると聞きますし、区に関わるのを避ける職員もいると思います。協働を推進する市職員がそのような関わり方では、なかなか協働に対して市民の理解も進まないのではないかでしょうか。今までリタイヤした人達が地域や人の為に活動をしてくれていたが、リタイヤ後も働く人が増えたこと、個人主義的な考え方の人が増えたこと、自身の生活で精一杯で人の為にと考える余裕が無くなっているなど、協働に関わる人材不足が大きな要因ではないでしょうか。また、ボランティア精神（無報酬協力）に頼る時代は終わりつつあるのではないかでしょうか。
- はじめは協働のような形から始まっていても、参加者の固定化・高齢化等に伴い民間の活力がなくなると職員の直営による維持を選ばれることが多く将来の作業量を考えると気軽に始めにくい。一度始まった事業について、自然消滅以外の削減を事実上認めていないため。
- 原則、自分の身の回りの事で精一杯だと思う。そこでどれだけ協働の事を日常的に意識に植え付けさせかだと思う。
- 協働の必要性・目的が庁内で共有されていない。部署ごとで理解度・温度差があり部署間の連携が弱い。業務以外の負担増と考える職員が多い。

11. 「あなたは今後、協働を増やしたい・始めたいと思いますか」選んだ理由

増やしたい・始めたい

- 市の職員だけでは、地域を活性化させていくのは難しいため、住民との協働は増やしていく方が良いと思います。
- 地域活動によって新しい出会いや地元の情報を得られるので。
- 地域のコミュニティが希薄化し、地域力が下がっている。地域のつながり、地域課題の解決には協働が必要。
- 問題解決にあたり、目的を同じとする、多種多様な知識のある方たちが集まることによって、多くの解決策を見つけられる。また、市民参加により、自分たちの地域という市民主体意識が強まり、活性化につながると思う。

増やしたくない・始めたくない

- 仕事と家庭で精一杯のため余力がない。
- 高齢化や人口減少が急速に進む中で、ほとんどの共同は自治会に依存したものが多く、更に負担を強いることになり理解を得ることが困難に思われるため。
- 今以上に業務が増えて手間が発生しそうだから。
- 全ての事業ではないと思われるが、様々な意見を聞き入れながら実施していく必要があり、タイムロスの懼れがあると思われる。
- 立場や組織が異なると、考え方の違いなどによってトラブルになるケースもあるため。

1 2. 協働を市民に広めるためにはどのような方法が考えられると思いますか。

- 広報紙や SNS 等を活用し、現在の取り組みを紹介する。また、取り組みに賛同してくれる方を募る。
- 成功事例の共有、市民参加型ワークショップなどの実施、ホームページや広報はしもとでの積極的な情報発信、高校生などの若者や地域リーダーの積極的な巻き込みが効果的だと思います。
- ポイントや特別な体験、特典、周辺施設や出店の利用等、何かしら、活動に参加することに対するメリットが得られるようにすることが良いのではないかと思います。
- 協働することに対してインセンティブ（金銭・物品・名誉等）をふかして、市民から参加したいと思えるような協働体制を整えていけば良いと思う。これから橋本市を作っていく若者を巻き込みたいので、スマホで利用できるアプリケーションや、WEB プラットフォームを整えていけば良いと思う。
- 継続して、職員研修を実施していくしかないと思う。各個人が担当業務として行っていることが、実はすでに市民との協働ですよという場合も多々あると思う。本人が認識していないだけで、やっている、出来ている場合もあると思うので、そういう意味では、研修などで啓発、情報共有などを行う必要がある。
- 行政・市民双方が協働でまちづくりを行う必要性がある旨の研修を行うのが良いのではないかと思います。（例えば、ゲーム性を持たした体験型の研修等をすると、普段協働意識を持っていない方でも参加してくれるのでは）
- 学校で話をしたり、見学会をしたり、小さい頃から市役所を身近に思ってもらえるようにする。
- 協働を掲げたイベントが必要ではないか。エンジン 0 1 in 和歌山有田など参考になりそうな気がする。

1 3. 職員への協働研修を今後も検討しています。どのような研修が良い（参加したい）と思いますか。

- 近隣の自治体（かつらぎ町や高野町など）と共同で、お互いの取り組みなどの意見交換を交えた研修などがあればうれしいです。
- 具体的にどう動いたか、どのような働きかけをしたか、協働の事業実施までの経緯をイメージできるものが良いと思います。
- 協働に必要なスキル（コミュニケーションスキル、リーダーシップ、問題解決力など）を得られる研修
- 市民と行政による協働事業の取り組み事例（先進地事例）の紹介など。協働事業の失敗事例も必要でないかと思います。
- 市民活動団体や NPO 団体の特徴や活動について、詳しく知りたいです。
- 協働に関わる自治体への先進地視察
- 一般論をワークショップ形式で実施する研修ではなく、各地域（居住地域）に赴き、ボランティア体験等を経験する。
- 協働に直結するかどうか関係なく、職員がやりたいと思っていることを挙げて、協働ができるかどうか、するならどのような方法があるかを考える研修。
- 協働の理解と必要性を感じられる研修。事例共有もあるとよい。積極的に意見交換できそうなカフェミーティングのような形はどうでしょうか？
- オンライン参加が可能な研修。